

市営住宅とみなし特定公共賃貸住宅の入居者を募集しています



◆募集期間および対象住宅(定期募集) 10月19日(月)～30日(金)まで

町名	団地名	建築年度	構造	市営住宅					みなし特定 公共賃貸住宅
				1DK	2DK	3DK	ペット可	車いす対応	
高田町	下和野	H 26	RC	1戸	—	1戸	—	—	常時申し込み を受け付けて います。
	中田	H 27	RC	—	—	2戸	1戸(3DK)	—	
気仙町	水上	H 26	RC	—	—	1戸	—	—	
	今泉	H 28	RC	—	1戸	1戸	—	—	
米崎町	脇の沢	H 29	RC	—	1戸	—	—	—	
小友町	柳沢前	H 26	RC	—	1戸	—	—	—	
広田町	田端	H 27	RC	—	1戸	—	—	—	

◆家賃…入居世帯の総所得、団地、間取りによって決定します。世帯ごとに異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

◆申込資格(下記の全てに該当する人)

(1) 市営住宅(住宅に困窮する低額所得者を対象とした住宅)

- ①入居しようとする世帯全員の所得総額が月額158,000円以下の世帯
※高齢者のみの世帯、障がいのある人がいる世帯、18歳以下の人がいる世帯、妊婦がいる世帯については月額214,000円以下の世帯

- ②転勤や結婚などのために現に住宅に困っている人
③申込者および同居しようとする入居者が暴力団員でないこと

(2) みなし特定公共賃貸住宅(中堅所得者層を対象とし、優良な住環境を提供するための住宅)

- ①入居しようとする世帯全員の所得総額が月額158,001円以上487,000円以下の世帯
②次のいずれかに該当する人
・満40歳以下の人
・満41歳以上で親族と同居して入居する人、または1年以内に親族と同居を予定している人
・勤務状況などにより親族との同居が困難な人
③申込者および同居しようとする入居者が暴力団員でないこと。

◆必要書類(郵送は不可となりますので、次の提出先までご持参ください)

- ①入居申込書(市営住宅管理センター、市役所住宅政策室で配布。市営住宅管理センターホームページからもダウンロードできます。)
②入居希望者全員の**本籍およびフリガナが記載された住民票**(市役所市民課発行)
③18歳以上(高校生を除く)の入居希望者全員の**課税証明書(令和8年度)**(市役所市民課発行)
④障害者手帳などの写し(障がいのある人)
⑤**納税証明書**…滞納があった場合、入居者を選考する際に、著しく不利な取り扱いとなります。
※取得する際には税目ごとではなく、「滞納がないことを一括で証明する内容」と窓口でお話してください。(市役所市民課発行)

◆提出先…陸前高田市営住宅管理センター(指定管理者:株式会社長谷川建設)

〒029-2205 陸前高田市高田町字西和野200番地

常時募集
しています

これまでの定期募集で入居者が決まらなかった空き部屋については、**申込期間を定めずに、常時申し込みが可能**となっています。
申し込みが可能な部屋については、市営住宅管理センターホームページをご覧ください。また、その他の詳細につきましては、次の問い合わせ先へご確認ください。

問い合わせ先 陸前高田市営住宅管理センター ☎0192(47)5180 または 市役所住宅政策室住宅政策係(内線482)

立教大学陸前高田サテライト通信

本年も、岩手大学と立教大学の合同授業を、8月24日(月)から28日(金)までの5日間で実施しました。
今年のフィールドワークに参加したのは、岩手大3人、立教大9人の計12人の学生です。その他にも、教員4人と手伝い1人を加え、総勢17人での活動となりました。
授業では、12人の学生が3つのグループに分かれ、それぞれ担当地区を決定。今回は、あえて対象地区を狭く設定し、地域を徹底的に理解することを目指しました。また、今回は市社会福祉協議会に準備を担当していただき、小友町でのフィールドワークが実現しました。同協議会会長が町内の受け入れ先として3カ所を選んでくださり、学生たちは限られた地区内を何度も歩いて回りました。学生たちは、地域の皆さんのご自宅にも上げていただくなど、すっかり打ち解けて交流を深めることができた様子です。
立教大の学生は、各学部からこの授業のためだけに集まっており、岩手大学との関係もない中での活動でしたので、なかなか大変な環境であったと言えます。しかし、「小友町をどう理解するべきか」という大きな疑問と、大学の単位になることが大きな原動力になったように思います。

岩手大学・立教大学合同授業
立教大学陸前高田サテライト長
松山 真



発表の準備



地域を歩く

▼今年のテーマ
今年のテーマは「生活の移り変わりを聴き取る」です。学生たちは3日間、担当地域での活動に専念し、最終日にはその成果をまとめて、社会福祉協議会や小友町の方々に向けた報告会を開催しました。
Aグループが担当したのは、新田地区です。ここは小友駅のある地域であり、駅が出来る前から住んでいる人や同地域に長く住んでいる皆さんに話を伺いました。気仙大工が建てた大きな家にお堂も建っている、生活の中に信仰があることを知りました。

Bグループは、唯出地区を担当しました。海とともにある生活が実際に浮き彫りになったほか、小友のお祭りを4年に1回開催する神社もあり、聴き取りを通して、この地区と立教大学との新たな関わりもできてきています。
Cグループは、両替地区です。海の近くにはもう誰も住んでおらず、山の手に暮らす人たちがいました。ここは実際の居住区域と地名が異なる場所であり、初めて訪れた学生にとっては理解の難しい背景もあったようです。
本活動を通して、とても書き切れないほどの手厚いもてなしを受けました。自宅に訪問させていただいたのは、全部で15軒になります。小友町の皆さん、本当にありがとうございました。
▼今後の考え方
一つの地域を知ることが、やがては陸前高田全体を知ることにつながるかもしれません。今後も数年をかけて地道に活動を続け、陸前高田の具体的な姿をより深く学んでいく所存です。事前学習・当日学習・事後学習と段階を重ねることで、陸前高田のさまざまな側面を明らかにしたいと考えています。もちろん、これまでご縁のあった地域との交流も継続していく予定です。こうした取り組みを通じて、陸前高田へ足を運ぶ学生をさらに増やしていくのが私たちの願いです。来年はどの地域で受け入れていただけるか、今から楽しみです。

問い合わせ先 立教大学陸前高田サテライト事務局 ☎03(3985)4967 メール rrs@rikkyo.ac.jp